



## 交通バリアフリーニュース

# 国土交通省バリアフリー化 推進功労者大臣表彰(第6回) 推薦案件を募集します!

公共交通機関、建築物、道路、駐車場、都市公園などの総合的で一体的なバリアフリー化を進めるとともに、国民のバリアフリー化に関する意識啓発にもより一層努めるため、国土交通分野におけるバリアフリー化の推進に多大な貢献が認められた個人や団体を表彰いたします。

### 【募集受付期間】

7月9日(月)～8月31日(金)まで



#### ○募集対象

国土交通分野に係る施設・車両等のバリアフリー化やバリアフリー化の普及・促進活動等に積極的に取り組んでいる個人又は団体が対象となります。(詳細は裏面をご参照下さい。)

#### ○推薦案件の募集(応募について)

募集対象に合致すると思われる案件がありましたら、下記お問い合わせ先までご相談下さい。ご相談頂いた案件は国土交通省の地方整備局・地方運輸局等(以下「地方局等」)において表彰候補として推薦させて頂く場合があります。

#### ○表彰の選考方法及び表彰時期

地方局等から国土交通省本省へ推薦を行い、選考委員会において選考した上で、最終的には国土交通大臣が決定し、平成25年1月に国土交通省本省において表彰を行う予定です。

お問い合わせ先：国土交通省四国運輸局交通環境部消費者行政課 (Tel087-825-1174)

## 【表彰の対象となる主な取組み事例と過去の受賞例】

### ＜表彰対象となる主な取組み事例＞

- ・「バリアフリー基本構想」に基づき施設や車両等の連続的なバリアフリー化整備を行っているもの
  - ・施設整備にあたって障害当事者や有識者等の意見を積極的に取入れ、設計や工事に反映しているもの
  - ・事業者と地方自治体や障害者団体等の連携による取組みを行っているもの
  - ・「バリアフリー整備ガイドライン」の項目以外に独創的・先駆的な取組みを行っているもの
  - ・障害者等の社会参加を積極的に支援するなどの取組みを行っているもの
  - ・バリアフリー化推進のための人材育成などの啓発活動を実施しているもの
- など、バリアフリー化推進のために取り組んでいる個人や団体から決定します。



①空港ビルと駅のバリアフリー化



②駅と周辺のバリアフリー化



③参拝路の知-フ化



④障害者用の観戦入-ス



⑤トラバ-ルサポ-ター育成講座

### ＜過去の主な受賞例＞

受賞者名	受賞内容
①東京国際空港ターミナル(株)・京浜急行電鉄(株)・東京モノレール(株)	空港ビルと駅が一体となった先導的なバリアフリー化を実現
②北大阪急行電鉄(株)・吹田市・豊中市	鉄道事業者と複数自治体が連携して基本構想による駅及び周辺のバリアフリー化を実現
③音羽山・清水寺	重要文化財を活かした寺社地におけるバリアフリー化を実現
④(株)楽天野球団	地域の障害者団体と連携して既存野球場の改修によるバリアフリー化を実現
⑤特定非営利活動法人 旅とびあ北海道	高齢者や障がい者の旅行支援事業やトラベルサポーターの育成講座を開催

※過去の受賞案件については、国土交通省ホームページ（<http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/barrierfree/index.html>）でご案内しています。

## 国土交通省各地方支分部局等連絡先

＜国土交通省本省＞ 総合政策局安心生活政策課 03(5253)8111(代表)

### ＜地方整備局＞：建築物・道路・駐車場・都市公園に係るもの

北海道開発局開発監理部開発調整課 011(709)2311(大代表)  
 東北地方整備局企画部企画課 022(225)2171(代表)  
 関東地方整備局企画部企画課 048(601)3151(代表)  
 北陸地方整備局企画部企画課 025(280)8880(代表)  
 中部地方整備局企画部企画課 052(953)8119(代表)  
 近畿地方整備局企画部企画課 06(6942)1141(代表)  
 中国地方整備局企画部企画課 082(221)9231(代表)  
 四国地方整備局企画部企画課 087(851)8061(代表)  
 九州地方整備局企画部企画課 092(471)6331(代表)  
 沖縄総合事務局開発建設部建設行政課 098(866)0031(代表)

### ＜地方航空局＞：公共交通機関のうち航空に係るもの

東京航空局総務部航空振興課 03(5275)9292(代表)  
 大阪航空局総務部航空振興課 06(6949)6211(代表)

### ＜地方運輸局＞：公共交通機関に係るもの[航空関係を除く]

北海道運輸局交通環境部消費者行政・情報課 011(290)2725  
 東北運輸局交通環境部消費者行政・情報課 022(791)7513  
 関東運輸局交通環境部消費者行政・情報課 045(211)7268  
 北陸信越運輸局交通環境部消費者行政・情報課 025(244)6116  
 中部運輸局交通環境部消費者行政・情報課 052(952)8047  
 近畿運輸局交通環境部消費者行政・情報課 06(6949)6431  
 神戸運輸監理部総務企画部企画課 078(321)3144  
 中国運輸局交通環境部消費者行政・情報課 082(228)3495  
 四国運輸局交通環境部消費者行政課 087(825)1174  
 九州運輸局交通環境部消費者行政・情報課 092(472)2333  
 沖縄総合事務局運輸部企画室 098(866)1812

## 交通消費者行政レポート(平成 23 年度報告)を発行

平成 23 年度の交通消費者行政をとりまとめた「交通消費者行政レポート」を5月に発行しました。

レポートは、行政相談、バリアフリーへの貢献による四国運輸局長表彰、消費者行政インタビューの各概要と、交通バリアフリーの推進として、四国における交通バリアフリー推進基本方針の概要、四国における交通バリアフリーの現状、平成 23 年度における交通バリアフリー推進の取り組みを紹介する内容となっています。

なお、本レポートは四国運輸局ホームページに掲載しています。

URL : <http://www.tb.mlit.go.jp/shikoku/soshiki/koutsuu/report.html>



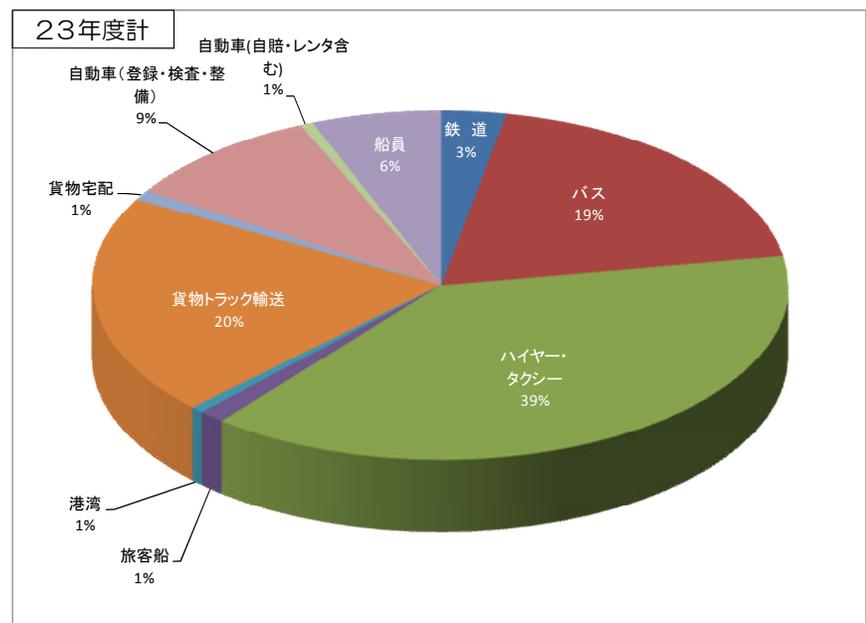
### 行政相談

四国運輸局では、交通に関する意見要望、問い合わせ、苦情等の行政相談に対応するため、運輸局及び運輸支局等に行政相談窓口を設置し、国民利益の保護と行政運営の改善を図っています。

#### 《行政相談の傾向》

モード別の行政相談件数割合は、右図のとおりであり、相談内容は、意見・要望が 87% を占めています。

平成 23 年度モード別割合（意見・要望、問い合わせ）



#### ◇タクシーに関する相談例

＜問い合わせの内容＞ タクシーの違法駐車について過去から問題視されているが、指摘される場所は限定され、事故の危険性もあるので早急に改善されたい。

＜措置＞ 地域によっては関係機関を交えた対策会議を設けて協議していますが、特に警察の取締りによる協力が不可欠であり、引き続き事業者への指導を行いながら対応を検討したいとの回答を伝えました。

#### ◇トラックに関する相談例

＜問い合わせの内容＞ ゴルフバッグを送るため宅配事業者へ持ち込んだところ、中身の確認を要求された。検査を受けるため余計な時間がかかり、過去にそのようなことは要求されたことがなかったので、理由を説明して欲しい。

＜措置＞ 申立てがあった宅配事業者に照会したところ、宅配便運送約款に基づく検査でした。そのため、事業者に対して、検査の実施に際しては利用者に対し十分説明のうえ、理解を得て頂くよう対応を依頼するとともに、相談者にも上記理由を説明しました。

四国における交通バリアフリーの現状

四国における、1日当たりの平均的な利用者数が5,000人以上(平成22年迄の目標)の旅客施設のバリアフリー化については、交通バリアフリー法及びバリアフリー新法に基づく自治体の基本構想等により計画的に整備が進められ、すべての施設でバリアフリー化が完了しています。一方、5,000人未満の駅についても鉄軌道事業者と国や地方自治体との連携等によりバリアフリー化が進んでいます。

また、車両等についても、乗合バス車両や旅客船を中心にバリアフリー化が進んでいます。

※平成23年度中にバリアフリー化が進んだ主な駅、停留場(新設を含む)

- 高松琴平電気鉄道(株)・・・高松築港駅(ブロック、障害者対応型トイレ)
- 片原町駅(スロープ、ブロック、転落防止設備)
- 土佐電気鉄道(株)・・・堀詰電停(スロープ、ブロック、転落防止設備)

旅客施設の状況 (平成23年3月31日現在)

☆鉄軌道駅のバリアフリー化状況

駅総数	段差への対応	視覚障害者誘導用ブロック	障害者対応トイレ	転落防止設備
491	117	196	24	229

※ 利用者数が5,000人以上の10駅を含む。



高松琴平電気鉄道(株)片原町駅のスロープ

☆バスターミナルのバリアフリー化状況

ターミナル総数	段差への対応	視覚障害者誘導用ブロック	障害者対応トイレ
2	2	2	—

※ 四国のバスターミナルは、1日当たりの平均的な利用者数が1,000人未満の小規模な施設しかない。

☆旅客船ターミナルのバリアフリー化状況

ターミナル総数	段差への対応	視覚障害者誘導用ブロック	障害者対応トイレ
93	43	11	13

※ 四国の旅客船ターミナルは、1日当たりの平均的な利用者数が5,000人未満の中小施設で占められている。

車両等 (平成23年3月31日現在)

☆鉄軌道車両のバリアフリー化状況

区分	総車両数	基準適合両数	基準適合率
鉄道車両	593	81	13.7%
軌道車両	108	11	10.2%
合計	701	92	13.1%

☆乗合バスのバリアフリー化状況

総車両数	区分	基準適合両数	基準適合率
1,509	低床バス※	388	25.7%
	ノンステップバス	294	19.5%

※ノンステップバスを含む。

☆旅客船のバリアフリー化状況

総隻数	基準適合隻数	基準適合率
111	20	18.0%

☆福祉タクシーの導入状況

基準適合両数
693

※バリアフリー法の施行により、平成19年度から導入された基準適合車両数のみの集計である。

## バリアフリー教室・バスの乗り方教室を開催 ～徳島県徳島市～

### 徳島市立上八万小学校

平成24年6月28日(木)、四国運輸局と徳島運輸支局は、徳島市内の文化の森総合公園において「バリアフリー教室・バスの乗り方教室」を開催しました。

教室には、上八万小学校の4年生49名が参加しました。バスの乗り方教室では、徳島市交通局の協力を得て、ノンステップバスを準備いただき、そのバスに乗り込んで整理券の取り方や料金表の見方などバスの基本的な乗り方を学習しました。

また、徳島市交通局職員の説明により、ノンステップバスの特徴を学習したり、車いす利用者のバス乗降介助の様子を見学しました。

バリアフリー教室では、社会福祉法人青香福祉会、徳島市社会福祉協議会の講師及び四国運輸局職員の指導のもと、車いす利用者と高齢者の疑似・介助体験を行いました。

車いす体験では、利用する人と介助する人の大変さを体験し、高齢者疑似体験では、体験装具を身につけて、お年寄りの方や障害のある方が移動する困難さを体験しました。

参加者には、講師の話を聞いたり、疑似・介助の実体験を通して、相手の立場を理解し協力するための「心のバリアフリー」の大切さを感じてもらうことができました。



講師によるバスの乗り方説明



車いす利用者の介助体験



高齢者の疑似・介助体験



児童代表へ修了証を交付

## 消費者行政インタビュー

四国運輸局では、消費者ニーズや消費者行政上の課題を把握し、その結果を行政に役立てていくことを目的として公共交通機関の利用者等を対象にインタビューを行っています。

今回は、「ごめん・なはり線」の開通 10 周年を記念した「県民の夢を運ぶ ごめん・なはり線」シンポジウムが 7 月 1 日（日）に高知県安芸市において開催されましたので、その様子とごめん・なはり線の利用者に伺ったお話をお伝えします。



日本最後のローカル新線として平成 14 年 7 月 1 日に開通した、土佐くろしお鉄道株式会社「ごめん・なはり線」の開通 10 周年を記念した「県民の夢を運ぶ ごめん・なはり線」シンポジウムが 7 月 1 日（日）に高知県安芸市において開催されました。当日は、高知県南国市の後免駅から土佐くろしお鉄道を利用し、車内において利用客の方々に「ごめん・なはり線」についてのお話を伺いながら、会場である安芸市へと向かいました。

土佐くろしお鉄道株式会社は、高知県と沿線の市町村主導の第三セクター鉄道会社で、県西部の中村・宿毛線及び県東部の阿佐線（ごめん・なはり線）の 2 つの路線を有し、通勤、通学及び観光分野等を始めとして、高知県の交通東西軸を形成する重要な路線です。このうち、「ごめん・なはり線」は昭和 40 年 3 月に日本鉄道建設公団により、安芸～田野間が国鉄新線として着工しましたが、国鉄財政が悪化する中、昭和 56 年には工事が一時中止となり、開通の見通しが立たない状況となっていました。住民の熱意、県東部市町村及び高知県等の尽力により、土佐くろしお鉄道株式会社が設立（昭和 61 年 5 月）され、工事が再開されました。

こうして平成 14 年 7 月 1 日、開通までに 37 年もの歳月を要し、「ごめん・なはり線」42.7km、全 20 駅は開通し、現在では年間約 130 万人の利用客があります。

「ごめん・なはり線」の西端駅である後免駅には、「ごめん えきお君」のキャラクターの立体モニュメントがあり、20 駅すべてに様々なキャラクターが配置されています。これらキャラクターは「アンパンマン」の生みの親である、高知県出身の漫画家「やなせたかし」氏のユーモア溢れるイラストで表現されています。



さて、後免駅から 1 両編成の車両に後部扉から乗り込むと、車両前方には電光掲示の運賃表が目に入ってきます。ワンマン列車で各駅において整理券を取り、前方扉前の運賃箱に現金を投入するのは、まさしくバスの感覚です。

車内は通路が広く、バリアフリー対応型のトイレが設置されたり、行先表示がテロップで流れたり、清潔で誰にでも優しい空間です。



私が乗車した列車は後免駅 10:36 発の「しんたろう号」で、幕末の志士で陸援隊隊長の中岡慎太郎（高知県安芸郡北川村出身）から名前を付けられています。また、三菱財閥の創業者である岩崎弥太郎（高知県安芸市出身）から名前を付けた「やたろう号」もオープンデッキ車両となっています。大河ドラマ「龍馬伝」をご覧になって、幕末の坂本龍馬たちとの活躍に興味を持たれた方も多いと思います。

列車が出発すると、この車両にはオープンデッキが設けられていることから、多くの方がデッキから雄大な太平洋を眺められていました。この路線の大半の区間が高架となっており、見晴らしが良く、雄大な太平洋の姿に圧倒されます。海岸沿いを走る路線性格に合わせオールステンレスカーとなっています。



当日は、日曜日のため子供連れの乗客も多くお話しを伺ってみました。

- 子供が鉄道が大好き（子テッチャン）で、月に数度は 1 日乗車券（800 円小児用）を購入してたくさん乗っています。乗車位置も運転手さんの隣と決めています。
- 家族 4 人（5 才、3 才男児）で、休日を利用して目的地無く乗車しました。子供が鉄道が好きで、学校の夏休み、春休みには利用しています。
- 高知市内に住んでおり、初めて小学生の孫と利用させてもらったが、オープンデッキから見る、太平洋の景色が素晴らしい。採算ベースでは厳しいかもしれませんが、会社には頑張ってもらいたいと思います。
- 香南市のいち駅から高知市まで、通勤しています。高校生の時から列車を利用していますが、それ以前はバスしかなかったもので、渋滞等の時間の心配をする必要がなくなり、ゆったり過ごせます。
- 今日は彼女と、のいち動物園に行きます。便数もあるので便利です。

○のいちから後免まで、普段は高校への通学に使っています。バスに比べるとスペースがあるので友達とゆったり会話することが出来ます。また、時間も正確なので、遅刻の心配もないです。

○開業当初から安芸駅の便所掃除、自転車の整理等のボランティアをしており、安芸駅の駅長さんより5～6枚の感謝状を頂いています。列車はバスに比べれば快適であるし、道路は事故等により遅れる場合もあります。

多くの方から、「ごめん・なはり線」についてのお話をうかがっていると、11時30分に目的地の安芸駅に到着しました。安芸駅のキャラクターのモニュメントは「あき うたこちゃん」でした。

この日のシンポジウムは市民会館で開催され、主催者である安芸市長から、国鉄再建の荒波のなか、日本最後に建設されたローカル鉄道で、年間120～130万人を運ぶ地域に必要不可欠な鉄道で、正確で安全便利のうえに太平洋を独り占め出来る素晴らしい空間を有し、11の市町村が「ごめん・なはり線」を支援している等の挨拶がありました。

また、土佐くろしお鉄道株式会社の寺田社長からは、四国循環鉄道の構想から37年を経て開業に至ったお話や、オープンデッキ列車の導入、沿線の各駅を拠点とした年10回程度のウォーキングイベントなど、今後も様々なイベントを開催し、通勤、通学等の足として安全第一に皆さんと共に歩んでいきたいとの挨拶がありました。



来賓祝辞として高知県知事より県外の観光客には是非、素晴らしい景色を列車から見て頂きたいし、大河ドラマの「龍馬伝」の岩崎弥太郎、中岡慎太郎等により高知県東部地域の知名度は2～3段階上がった。世界ジオパークに認定された、室戸市から東周りで是非、奈半利～高知へ入ってきて欲しい。また、地元出身の「やなせたかし」先生のキャラクターをすべての駅に配置し全国的にも珍しく、観光客に喜んで頂けるものと思っております。華のローカル鉄道として続いていく事を期待しています等の祝辞がありました。

その後、茨城県にある、ひたちなか海浜鉄道株式会社の吉田社長による「町も線路も元気になろう！市民とともに歩むローカル線」と題した基調講演、さらには和歌山県の貴志川線の存続に向けた取り組みや、経営努力等をパネルディスカッション方式で討論し、鉄道と地域の関わりや鉄道の社会的価値、楽しみ方などを考えさせて頂く機会となりました。



当日は、日曜日という事もあり、観光目的で乗車されている方も多数見受けられました。今回、初めて土佐くろしお鉄道の「ごめん・なはり線」に乗車し、オープンデッキ車両を始めとした個性豊かな列車に乗り、雄大な太平洋の景色を一望してみると、ローカル線が、観光面での素晴らしい役割を果たしていることを感じました。

この鉄道は、地域住民にとって通勤、通学、通院等の日常生活には必要不可欠な重要な公共輸送機関ですが、一方で、高知県東部地域も全国の地方と同様に、過疎化、少子高齢化といった問題を抱えています。人口減少が進むこの地域で、通勤、通学需要の減少は今後も必至であり、利用促進策を今後とも実施していかなければならないのではないのでしょうか。高知県東部地域の活性化や住民の足の確保のために、地域一体となった観光面や各種イベントの開催など、今後の鉄道の活用方法が大きな課題になると考えさせられた一日でした。

インタビュー実施日：平成 24 年 7 月 1 日（日）・書き手：藤井

四国運輸局が開催していますバリアフリー教室・バスの乗り方教室は、自治体、社会福祉協議会、障害者の方、公共交通事業者等から、後援・協力をいただき開催しております。6月に開催した教室は次のとおりです。

#### バリアフリー教室・バスの乗り方教室

（平成 24 年 6 月 28 日開催・徳島市立上八万小学校）

後 援：徳島県、徳島市、徳島市教育委員会

協 力：社会福祉法人徳島市社会福祉協議会、社会福祉法人青香福祉会・特別養護老人ホーム青香園、財団法人徳島県建設技術センター

ご協力ありがとうございました。心より御礼申し上げます。



みなさんからのご意見・ご投稿をお待ちしています。バリアフリーに関するものならなんでも結構です。四国運輸局消費者行政課まで、FAXまたはメールでお寄せください。

〒760-0064 香川県高松市朝日新町1-30

電話 087(825)1174

FAX 087(822)3412

Email: [Shikoku-shohisha@skt.mlit.go.jp](mailto:Shikoku-shohisha@skt.mlit.go.jp)



国土交通省

四国運輸局ホームページもご覧ください

<http://www.tb.skt.mlit.go.jp/shikoku/>

このニュースは交通バリアフリー関係の話題を中心にして、4県自治体のバリアフリー関係担当部署、交通事業者及び地域のNPOの方にお送りしています。このニュースの配信につきまして、配信先の追加、変更や停止をご希望される方は、お手数ですが本メールの返信機能でご連絡ください。よろしく願い申し上げます。